

5th Sep, 2000 Nikkei

# 文化

私は英国の小さな劇団「タイ・ツアーズ」の団長を含めてわすれず、いじめ問題」をテーマとし、全英の中学・高校を巡回問題解決への提案をしてい

る。昨年は縁あって日本を訪問、来年秋には劇団の日本初公演を予定している。

多いことがわかる。もともと我が劇団は思春期の問題全般を扱っていたが、いつの間にか「いじめ」が専門のようになってしまった。この間もそれだけ学校側の要請があるからだ。

いじめはいじめの世界にも存在した。昔の英国人は一般的に「いじめは試練の一つ。加害者も被害者も長い目でみれば人間形成にはプラス」と容認してきたが、今はそう生やせしくはなくなってきた。だが実際には、いじめ解決したらよいのだろう。私たちの劇団も正解は持たせたい。

ただ、共に考え、解決への糸口を探るきっかけはトップ形式で、舞台より教室で実施する方が効果的だ。まず生徒たちに「いじめ」とは何かと尋ねる。「支配欲」「いじめははじめて」などの声が上がった。黒板に



「大広間」 探幽 狩野

「大広間」 探幽 狩野

「大広間」 探幽 狩野

「大広間」 探幽 狩野

「大広間」 探幽 狩野

## いじめの痛み劇で知って

◇英でも深刻、社会問題テーマに日本公演へ◇

### アンディー・ヒクソン



市内の学校で開いたワークショップでいじめの現場を再現

た。どうやら陰湿な人間関係を日の下にあらわすことが第一歩のようだ。しかも当事者が、自分から少し離れた視点で状況を観察できる距離を保つのが望ましい。それには

「分かんない」学が、英国にも集団で特定の人を無視する「いじめ」も無いわけではない。

来年度で開催される日英交流の一大イベント「ジャパン2000」を機に、「タイ・ツアーズ」の日本

初公演を計画している。そのために今、新しい劇を執筆中だ。せりふは日本語と英語の両方、役者も日本人が二人に英国人が二人だ。

来秋、まず英国内の五十校をまわり、その後は日本全国の五十校を訪問する。既に日本の二十校が公演依頼を打診してきた。今後は年末にかけて、計画実現に必要な約十兆円(千六百万円)の資金集めに奔走する考えだ。

演劇をいやしの手段に使用して考えたのは、母の影響だった。母は女優だったが、人生の半ばから文化人類学を学び、最終的にはドラム・セラピーの専門家になった。だが、この母の歩いた道に自分の道が重なるまでには、回り道をした。

私の子供時代には「いじめ」の影があった。一つは父の離婚。もう一つは頻繁に引越した。父の仕事の関係で、ほぼ毎年のように転居を繰り返した。私には常に転校生だった。

「分かんない」学が、中でも決定的な影響を受けたのが十二歳の時の引越した。母は離婚後、大学の文化人類学部の論文を書

くために、私と妹と弟の三人を連れてマレーシアの熱帯雨林に赴き、原住民の村に足かけ二年間暮らした。

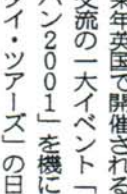
文明社会を離れ、私たちは家族は川のほとりに住んだ。私は現地の言語をすべて覚え、母の調査を手伝った。ジャンクルの生活で学んだことは「分かんない」だった。滞在中、たまたまも暴力さや口論を見聞きしてはななかった。問題が発生したら、皆で知恵を出し合い解決した。この時の体験がワークショップのヒントにもなっている。

十四歳で英国に戻った。不運を起したが、なんと高校は卒業した。やがて母はドラム・セラピーを始め「手伝わないか」と私

を誘ったが、反抗して家を飛び出し世界旅行に出た。放浪生活には三年間で終止符を打った。英国に戻り二十歳でロンドン北の、あるパブの経営者になった。

この時、パブに舞台を作りアマチュア劇をしつけたのが、演劇の道へ戻ることになった。二十六歳ですべてを捨てて演劇学校に入学。卒業後、現在の劇団の前身を作った。

三十九年間の人生を振り返ると、常に前向きに軌道修正ができたのは演劇が持つ「いやしの力のおかげだ」と思う。その多岐に及ぶ力、一人でも多くの人に伝えることができればと思っている。(劇団「タイ・ツアーズ」主宰者)



アンディー・ヒクソン

人生には多くの指し導がなければ無事人のとの出会いがあるが、千野忠男がアジア開発銀行総裁に初められたと、毎回勉強の前後に各校の賛歌を覚えさせられたのは少々閉口したものであった。

千野さんはとても気遣いされる方で、先日セミナーから一時帰国された折に、私の衆議院議院運営委員長就任のお祝いにと寸暇を割いてわざわざ委員

「分かんない」学が、中でも決定的な影響を受けたのが十二歳の時の引越した。母は離婚後、大学の文化人類学部の論文を書

くために、私と妹と弟の三人を連れてマレーシアの熱帯雨林に赴き、原住民の村に足かけ二年間暮らした。

文明社会を離れ、私たちは家族は川のほとりに住んだ。私は現地の言語をすべて覚え、母の調査を手伝った。ジャンクルの生活で学んだことは「分かんない」だった。滞在中、たまたまも暴力さや口論を見聞きしてはななかった。問題が発生したら、皆で知恵を出し合い解決した。この時の体験がワークショップのヒントにもなっている。

このままで進学も卒業もおぼつかない心配した母が、私に家庭教師をつけ

## 教師

孝男

議院運営委員長就任のお祝いにと寸暇を割いてわざわざ委員

ルプスの山歩きに出かけた。

ルプスの山歩きに出かけた。冬みがちで、体育の授業は息を止めて、一緒に走ってくださった。

木下り等々木下り等は歩部仲間。一つ一つ、こころをこめて書いています。

ルプスの山歩きに出かけた。冬みがちで、体育の授業は息を止めて、一緒に走ってくださった。